

依頼表現に見るポライトネス

—性差のかかわりを中心に—

清水勇吉

1. 研究目的

《依頼》とは誰かに何かを頼む行為であり、依頼者は依頼目的の達成のために様々な表現を用いる。その際に依頼者は、相手との円滑な人間関係を保つために依頼行為が《命令》¹ とならないよう努める。例えば誰かに本を“借りる”という場合、「本、貸してくれ」だけでなく、「本を借りてもいいですか」や「本、持っていない」など、依頼の仕方は何通りも考えられる。表現方法が一つでないということは、依頼者がその置かれた状況によって適切であろうと思われる表現を選択し、また使い分けているということであろう。基本的に《依頼》はそれのみでは相手に利益を与える行為ではないため、相手に行動を起こしてもらえるように状況に応じた表現の使い分けを行うのである。

依頼の目的達成のために依頼者がどう発話を行うかについては、これまでに多くの研究がなされているが、依頼者・被依頼者それぞれ、特に被依頼者の性別に焦点を当ててどのような発話行為をするのかなどについての研究はあまり見当たらない。もちろん、表現方法の選択に必ず依頼者・被依頼者それぞれの性別がかかわるとは断言できない。しかし依頼の際に、相手が同性か異性かということは依頼者の依頼表現の選択にいくらかの影響を与えるものと思われる。

本研究では大学生を調査対象とし、依頼を行う場面として回答者が想像しやすいようにテスト勉強に必要な資料を借りるという場面を、依頼相手として友人・先輩、そしてそれぞれに同性・異性を設定した。これにより、相手にいかにして配慮を表現しているか、またそれに影響を与えているものは何かを明らかにするため、調査を実施した。

また調査に際して、目上への接し方には、大きな性差は見られないだろう、異性への接し方として、相対的に男性はより気を遣い、女性はより親しげに接するのではないかという二つの推測を以て、調査・分析に臨んだ。

2. ポライトネス

ポライトネス理論はブラウン&レヴィンソンによって提唱されたものであり、日本語に訳される場合には多くの呼び方があるが、ここでは“対人配慮”としておく。会話、またはそれに付随する行動において、相手に対してどれほどの配慮を行うかが問題となるのがポライトネスである。

ポライトネスにおいて重要になるのが“フェイス”（面目・顔）と呼ばれる対人配慮を向けられるものであり、“ポジティブ・フェイス”と“ネガティブ・フェイス”とがある。“ポジティブ・フェイス”とは、他者に認められたい・よく思われたいという欲求，“ネガティブ・フェイス”とは、他者に押しつけられたくない・踏み込まれたくないという欲求であり、誰しも対人関係の中で持ちうるものと考えられている。

そしてそれらに対するポライトネスが“ポジティブ・ポライトネス”と“ネガティブ・ポライトネス”になり、“ポジティブ・ポライトネス”は相手に共感しようとするなど、自分と相手との距離を縮めようとするのが目的である。

“ネガティブ・ポライトネス”は相手に触れないようにするなど、回避的に相手との距離を置こうとするのが目的となる。今回の調査で取り上げた《依頼》という行為は、相手の行動を将来的に一部でも制限するため、相手に触れられたくないというネガティブ・フェイスを侵害する行為となる。よって本研究ではネガティブ・ポライトネスに焦点を当てることとなる。

“配慮”というと日本語では“敬語”ととられてしまいがちだが、単に敬語を使えばポライトネスだということではない。例えば、普段いわゆる「タメ口（タメ語）^{ぐち}」で話している相手に前触れもなく敬語で話しかけた場合、それは配慮を欠いていると言えるだろう。ことは置いといて突然変えられた相手は怪訝に思うかもしれない。話す相手、状況などに合った話し方、表現を選択するのが“ポライトネスである”ということなのである。

3. 調査方法

大学生を対象として依頼場面を設定したアンケート調査を行い、提示した状況の中でどのような表現をするかを想定して回答してもらった。調査は、2008年10月から11月の2ヶ月にかけて行った。調査に使用したアンケートには今回考察する項目以外の質問が載せられているが、本稿では対象を《依頼》に絞っているため、それらを取り上げない。

3-1. 調査場面

依頼場面の状況設定においては、依頼表現に影響を与えると思われる「上下関係」と「性別」の二つの要素を軸に、日常で起こり得る場面を設けた。以下に挙げるのが調査に使用した質問文である。

テストが近づき、勉強をしようと思いましたが、必ず出ると言われた範囲の資料が手元に無いことに気が付きました。そこで、資料を持っている人が思い浮かびました。

この場面で、さらに“仲の良い同性の友人”“仲の良い異性の友人”“同性の先輩”“異性の先輩”の4種の相手を設定し、まず資料を借りるかどうか、そして借りる場合はどのように言って頼むか、またその際にどの程度気を遣うかについて質問した。どの程度気を遣うかという評価の方法は、「1. 非常に気をつかう 2. わりと気をつかう 3. 少しは気をつかう 4. あまり気をつかわない 5. まったく気をつかわない」からの選択式とした。

3-2. 調査対象

調査対象は、全員20歳前後の徳島県の大学に通う大学生・大学院生とし、日本語母語話者281名を対象に調査を行った。以下に被調査者の出身を示す。被調査者の出身地に偏りが見られたため、残念ながら今回は地域差を問題としない。

地 域	回答者数(男性)	回答者数(女性)	合計
北海道・東北(北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)	1	1	2
関東(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・山梨・東京・神奈川)	4	2	6
信越・北陸(新潟・富山・石川・福井・長野)	1	1	2
東海(静岡・愛知・岐阜・三重)	5	2	7
近畿(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)	51	38	89
中国(鳥取・島根・岡山・広島・山口)	27	13	40
四国(徳島・香川・愛媛・高知)	63	58	121
九州・沖縄(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)	9	5	14
合 計	161	120	281

表1 被調査者の出身地

4. 分析方法

依頼する際に用いられた表現を配慮の観点から細かく分類し、使用実態とその使い分けを見る。本稿における依頼表現の使い分けとは、相手との心的距離や依頼内容の負担度などから、発話に「貸して」や「貸してもらえないでしょうか」といった表現を使い分けるなどして《依頼》を遂行することである。

今回の調査は自由記述式であるために「貸してくれへん」などの方言的表現も頻出したが、地域差を問題にはしないため方言的表現そのものについては言及しない。

4-1. 分析対象

アンケートで得られた回答の内、表現の形式を問わず《依頼》を意図して答えた部分を分析対象とする。

例 1) 資料が見つからないから、貸してくれん?ⁱⁱ

例 2) すいません、資料コピーさせて頂けませんか。

基本的に「貸して」などの動詞に着目しているが、アンケートの質問において借りる目的物を“(テスト勉強に使用する) 資料”としているため、「コピーさせて」なども一つの分析対象として扱うこととする。

4-2. 依頼表現のタイプ

依頼に直接関わりのある表現を取り上げ、タイプ別に分類した。以下に行う分類は、柳慧政氏の依頼表現文の分類を参考にした。

- ・直接型 文末が命令形をとる
「して」「してください」
- ・間接型 依頼相手に選択肢を与える方法
授受型、可能型、許可型、願望型、回避型(婉曲型)、メタ型
 - ・授受型 相手に恩恵を求める
「してくれる」「してもらう」「していただく」
 - ・可能型 依頼者の行動の可能性を相手に問う
「借りられる」「できる」「お願いできる」
 - ・許可型 相手に許可を問う
「してもらってもいい」「していただいてよろしいですか」
 - ・願望型 願望を示す形で発話を終える
「したい」「ほしい」「してほしいんだけど」
 - ・回避型(婉曲型) 発話以外からの情報の比重が大きい
(ものがないことを示唆しながら)「ないなあ…」
 - ・メタ型 依頼者の行動の説明により相手が叶えることを望む
「持っていないかと思って聞いたんだけど」

上に挙げたようにまず「直接型」，「間接型」の2種類の上位分類に分けられ，「間接型」はさらに6種類の下位分類に分けられる。

型の中では「直接型」のポライトネスの度合いが最も低い。助動詞などを付けないために，相手への負担の軽減を成していないからである。ただし，文体によっては配慮の意味が含まれるため，直接型全てのポライトネスの度合いが低いという訳ではない。

「間接型」は直接型と異なり，依頼相手にその依頼を受けるかどうか選択の余地を与えており，相手への押しつけを減じる効果があるため，直接型よりも配慮した表現であると言えるだろう。間接型の中で，相手が肯定・否定の選択をすることが可能なのは，「授受型」，「可能型」，「許可型」の3種である。

《依頼》における「授受型」は全て疑問文となる。授受型の疑問文は，大きく「くれる（くださる）」が付くものと「もらう（いただく）」が付くものの二つに分類され，「くれる（くださる）」は被依頼者の行為の実行を，「もらう（いただく）」はその行為による利益を依頼者が受けることが可能かどうかを問題にする。一般に「もらう（いただく）」の方が丁寧に感じられるが，それぞれ主語を補うと，「くれる」は「（あなたが）してくれる」，「もらう（いただく）」は「（私が）してもらおう」となる。前者が恩恵を与える側（単なる受益），後者が恩恵を受ける側（依頼による受益）と，視点の置き方に違いがあるためである。

「可能型」，「許可型」の二つはどちらも相手に問う形であるため，「授受型」と同様に文末は疑問形となる。疑問形は相手の選択を優先させることを表すため，直接型のような意思の表明にとどまるものよりはポライトと言える。

「願望型」は「したい」や「ほしい」のように直接願望の形で発話を終えるものは少なく，「してほしいんだけど」と語尾を「だけど」といった接続詞で終結することがほとんどである。これは，命令形ではないにせよ願望という形が自分の意思表示であるため，言い切りの形を避けることで，より間接的表現にしようとしているためと考えられる。「願望型」は相手に依頼者の欲求（依頼内容）を類推させることで《依頼》がはじめて成されるので，相手の類推がなければ《依頼》は成立しない。

「回避型」や「メタ型」は「願望型」と同じく，相手に依頼内容を類推させる必要がある。「回避型」は依頼の際に直接的な表現を避け，別の表現による「ほのめかし」に重点を置いている。「メタ型」は依頼者自身の行動や状況

などを説明することで相手が依頼内容を叶えてくれることを望むものである。どちらも依頼成立の可否は相手に抛るところが大きいため、ポライトネスの度合いは高くなるものの依頼成立及び実現に対する期待度は低い。

4-3. 依頼表現の文体

回答の文末表現から、表現のスタイルを普通体・丁寧体・「っす」体の3種に分類する。

- ・普通体 相手や素材等を同位として扱う対等表現
 「する」「そうしよう」
- ・丁寧体 相手や素材等を上位として扱う丁寧語一般
 「私です」「します」
- ・「っす」体 文末に「っす」が付く表現
 「無理っす」「いいっすか」

普通体は、心的距離の近い親しい相手に使用されるのが一般的な文体である。距離を置くという視点で言えば、ポライトネスの度合いは丁寧体に劣る。丁寧体は心的距離の近くない相手に使用されるのが一般的な文体で、主に目上に話しかける場面で見られる。親近感という視点で言えばポライトネスの度合いは普通体に劣るが、その名の通り丁寧な表現であることは間違いない。しかし丁寧体で注意しなければならないのが、日本語の敬語には敬意を表す意味もあるが皮肉を言うときにも使用されるために、敬語（丁寧体）であれば必ずポライトというわけではないということである。

「っす」体は、普通体を使うほど親しい話し方はできず、且丁寧体を使うほど距離をおいては話したくない場合に現れるものと思われる。用法は助動詞「です」に近く、しばしば名詞の後に付くが、「助かったっす」など動詞の後に付くことも可能である。これは相手を侮ったり自分より下位者、または同位者として捉えたりしているのではなく、親しみを表すために「です」調をややくだけた表現にし、丁寧体と普通体の間の表現として使用しているのではないかと考えられる。

4-4. 依頼表現の文末形式

依頼表現には、大きく分けて二つの形式がある。一つは「貸してくれ」や「貸していただけますか」などの肯定形、もう一つは「貸してくれない」や「貸していただけませんか」などの否定形である。

一般に、肯定形よりも否定形の待遇度が高い。肯定形にはそもそも目的達成の期待が込められており、疑問形になってもそれは変わらず、その行為が可能かどうかの是非を被依頼者に問うことになる。反対に否定形にはその期待が表には出てこないため、肯定形で依頼されるよりも否定形の方が被依頼者は拒否しやすい。依頼の目的が達成されなくとも、被依頼者は大きな負担を感じる必要はないのである。故に否定形の方がよりポライトであり、丁寧な印象を受けるのである。

肯定形・否定形の使い分けには、依頼者の被依頼者に対する期待度が関係していると考えられる。依頼内容の実行の可能性が低い場合は否定形を使うことで控えめな印象を与え、逆に実行の可能性が高い場合などは肯定形を使うことで相手の意思の確認としている。

5. 分析結果

5-1. 依頼の配慮評価

回答者に会話相手の違いによる気の遣い方を、数値で評価してもらった。今回は依頼する場合のみの数値を考察に採用する。よって、本項目の“気を遣う”というのは、《依頼》実行においてどれだけ気を遣うかということである。以下、会話相手の同性の友人を“同友”，異性の友人を“異友”，同性の先輩を“同先”，異性の先輩を“異先”とする。

表2は回答者の評価数値の、全体・男性・女性それぞれの平均値を算出したものである。数値の低い方がより気を遣うことを表している。

	同友	異友	同先	異先
全体	2.59	2.426	1.582	1.539
男性	2.806	2.461	1.714	1.609
女性	2.373	2.299	1.451	1.469

表2 評価された数値

男女別で見ると、どの項目も女性の方が男性よりも値が低く、より相手に気を遣うということが分かる。しかし気を遣う順序で見ると（次ページ、表3）、男性は全体の平均と同じであるが、女性は同先と異先の位置が逆になっている。

	1	2	3	4
全体	異先	同先	異友	同友
男性	異先	同先	異友	同友
女性	同先	異先	異友	同友

表3 気を遣う順序（表2の数値の小さい順）

女性は相手が先輩の場合、異性よりも同性の方に気を遣う傾向があることが見てとれる。また相手が友人の場合で評価数値をそれぞれ見ると、同友 - 異友間での差が男性は0.35, 女性は0.07となっており、男性は女性よりも、異性に対してより気を遣う傾向にあると言える。女性の評価数値の差は同友 - 異友間で0.07, 同先 - 異先間で0.02と比較的小さく、性別よりも友人か先輩かという点を優先して意識するようである。

5-2. 依頼表現の回答(タイプ)

本調査で得られた回答の表現のうち、依頼に直接関わりのある表現をタイプ別に分類し、全体・男性のみ・女性のための回答の割合をそれぞれ表に示した。

次ページの表4を見ると分かるように、無回答を除けば同友・異友・同先・異先の全てにおいて「授受型」が最も多い表現だということが分かる。それに次ぐのが「直接型」である。「可能型」「回避型」「メタ型」はいずれも1, 2例に留まっており、今回の調査における場面設定では出やすい表現というわけではないようだ。無回答は依頼を行わないという選択であるので、その割合が高いほど気を遣う傾向にあるということが言える。

「授受型」が最多であったのは、まず依頼内容の負担の大きさによるものだろう。場面設定として、「ペンを貸して」などの依頼よりは負担が大きいと言える。それは、依頼者がテスト勉強で資料が必要だということは、被依頼者もまた必要であることも十分に考えられるからである。またペンよりも長期にわたって貸す可能性が高く、被依頼者にかかる負担は軽くない。だからこそ、資料をすぐに返却するという意図も込めて「コピーさせて」などの表現が出てくるのだと思われる。また、「お金を貸して」などの負担の大きすぎる依頼でもないために、型としては「直接型」に次にポライトネスの度合いの低い、つまり心的距離が近く親しげな表現である「授受型」が選択されたと考えることができる。

	直接型	授受型	可能型	許可型	願望型	回避型	メタ型	無回答	その他	計
同友	86	142	1	38	6	0	0	8	0	281
	30.6%	50.5%	0.4%	13.5%	2.1%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	100.0%
異友	55	123	0	37	9	0	0	55	2	281
	19.6%	43.8%	0.0%	13.2%	3.2%	0.0%	0.0%	19.6%	0.7%	100.0%
同先	40	130	2	28	15	1	1	64	0	281
	14.2%	46.3%	0.7%	10.0%	5.3%	0.4%	0.4%	22.8%	0.0%	100.0%
異先	28	79	2	23	12	1	1	135	0	281
	10.0%	28.1%	0.7%	8.2%	4.3%	0.4%	0.4%	48.0%	0.0%	100.0%

表4 全体の回答

	直接型	授受型	可能型	許可型	願望型	回避型	メタ型	無回答	その他	計
同友	66	76	0	12	2	0	0	5	0	161
	41.0%	47.2%	0.0%	7.5%	1.2%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	100.0%
異友	39	71	0	14	4	0	0	33	0	161
	24.2%	44.1%	0.0%	8.7%	2.5%	0.0%	0.0%	20.5%	0.0%	100.0%
同先	29	79	1	9	7	0	1	35	0	161
	18.0%	49.1%	0.6%	5.6%	4.3%	0.0%	0.6%	21.7%	0.0%	100.0%
異先	19	47	1	7	7	0	1	79	0	161
	11.8%	29.2%	0.6%	4.3%	4.3%	0.0%	0.6%	49.1%	0.0%	100.0%

表5 男性の回答

	直接型	授受型	可能型	許可型	願望型	回避型	メタ型	無回答	その他	計
同友	20	67	1	26	4	0	0	2	0	120
	16.7%	55.8%	0.8%	21.7%	3.3%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	100.0%
異友	16	52	0	23	5	0	0	22	2	120
	13.3%	43.3%	0.0%	19.2%	4.2%	0.0%	0.0%	18.3%	1.7%	100.0%
同先	11	51	1	19	8	1	0	29	0	120
	9.2%	42.5%	0.8%	15.8%	6.7%	0.8%	0.0%	24.2%	0.0%	100.0%
異先	9	32	1	16	5	1	0	56	0	120
	7.5%	26.7%	0.8%	13.3%	4.2%	0.8%	0.0%	46.7%	0.0%	100.0%

表6 女性の回答

男女それぞれの表を比べると、それぞれの傾向が見られる。「授受型」が表現の中では最多であることは共通しているが、男性は「直接型」、女性は「許可型」が多いことが分かる。型だけで見れば「直接型」よりも「許可型」の方がより相手に配慮した表現と取ることができるため、この点で言えば、女性の方がよりポライتنا表現を選択するようである。

男性の回答に「直接型」が多いのは、配慮を欠いているというよりも《依頼》の伝達性を優先させたと考えられる。間接的表現であれば露骨な言い方を避けるという点で配慮していると言えるが、遠まわしな表現は発話された内容の不確定さを増加させる。伝えたい内容が明確でなければ、その分相手

に類推させることとなり負担が大きくなるのである。同友に対して〔直接型〕が〔授受型〕と同程度の頻度で出現しているのは、ことば遣いで配慮する必要性の低さから伝達性や簡潔性を優先した顕著な例ではないかと思われる。

女性の回答については、男性のそれに比べると多くのタイプに散らばったと見ることができる。回答者の表現そのものは男女ともに多種多様なものであるが、タイプ別にすると男性には偏りが見られ、女性は表現のバリエーションが比較的豊富だということである。「してもいい（ですか）」という〔許可型〕の占める割合が高いことも、女性全体のポライトネスの度合いを上げている。

男女に共通しているのは、同友、異友、同先、異先の順に無回答の割合が高くなっていることであり、その増加率も、同友<異友<同先<異先と、同友と異友、同先と異先の間に大きな隔たりがある。ここから分かるのは、《依頼》を行うかどうかの選択の段階では、依頼相手の性別に大きく影響を受けるということである。男女どちらとも、異性に頼むよりは同性の方が頼みやすいようである。5-1. で見た結果も含めて考えると、依頼しない場合と実際に依頼してどう表現をする場合とで配慮する視点も変わると言える。

5-3. 依頼表現の回答(スタイル)

回答のうち無回答を除いたものを、表現のタイプ・文体・文末形式でまとめて表にしたものが表7~10である。

表7,8を見ると、友人に対しては普通体が多く見られるが丁寧体もわずかに見られる。一般に友人相手に丁寧体を使用するのは不自然に思われるが、比較的ポライトネスの度合いの高くない〔直接型〕や〔授受型〕に丁寧体を組み合わせていることから、友人にも過剰にならない範囲で配慮しようとする意思が感じられる。同性・異性両方の友人に丁寧体で回答しているのは男性2名で、どちらに対しても「貸してください」と同じ回答をしていた。使い分けをしていないことから、この回答者は少なくとも今回のアンケートで設定された相手には誰に対してもポライトネスの度合いの高い表現をすると考えることができる。

型	体	形	女	男	総計
可能型	普通体	肯定形	1		1
	普通体	集計	1		1
可能型	集計		1		1
願望型	丁寧体	肯定形		1	1
	丁寧体	集計		1	1
	普通体	肯定形	4	1	5
	普通体	集計	4	1	5
願望型	集計		4	2	6
許可型	丁寧体	否定形	1		1
	丁寧体	集計	1		1
	普通体	肯定形	21	9	30
	普通体	否定形	4	3	7
許可型	集計		25	12	37
許可型	集計		26	12	38
授受型	丁寧体	否定形	1		1
	丁寧体	集計	1		1
	普通体	肯定形	5		5
	普通体	否定形	61	76	137
授受型	集計		66	76	142
授受型	集計		67	76	143
直接型	丁寧体	肯定形		3	3
	丁寧体	集計		3	3
	普通体	肯定形	20	63	83
	普通体	集計	20	63	83
直接型	集計		20	66	86
総計			118	156	274

表 7 同友に対する表現

型	体	形	女	男	総計
願望型	普通体	肯定形	5	4	9
	普通体	集計	5	4	9
願望型	集計		5	4	9
許可型	普通体	肯定形	18	8	26
	普通体	否定形	5	6	11
	普通体	集計	23	14	37
	許可型	集計	23	14	37
授受型	丁寧体	否定形	1		1
	丁寧体	集計	1		1
	普通体	肯定形	5	2	7
	普通体	否定形	46	69	115
授受型	集計		51	71	122
授受型	集計		52	71	123
直接型	丁寧体	肯定形	1	4	5
	丁寧体	集計	1	4	5
	普通体	肯定形	15	35	50
	普通体	集計	15	35	50
直接型	集計		16	39	55
総計			96	128	224

表 8 異友に対する表現

表 9,10 を見ると、先輩に対しては丁寧体が多く見られるが、普通体もわずかに見られる。普通体の回答に「資料見せて」という表現をした男性が 1 名いるが、依頼相手との上下関係・性別に関係なく全て同様の回答であったため、普段からポライトネスの度合いが低い表現の多い、もしくは相手による表現の使い分けをあまりしない人物なのかもしれない。他にも普通体の回答があるが、「もしよければ…」と回避型の回答をすることでポライトネスの度合いを高めている。

〔メタ型〕の回答が出たのも先輩に対するもののみで、「持ってませんか」と聞くことで「貸して」という直接的な表現を避け、ポライトな態度を示している。

型	体	形	女	男	総計
メタ型	丁寧体	否定形		1	1
	丁寧体	集計		1	1
メタ型 集計				1	1
可能型	つつ	否定形		1	1
	つつ	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	1		1
	丁寧体	集計	1		1
可能型 集計			1	1	2
回避型	普通体	肯定形	1		1
	普通体	集計	1		1
回避型 集計			1		1
願望型	丁寧体	肯定形	8	7	15
	丁寧体	集計	8	7	15
願望型 集計			8	7	15
許可型	つつ	肯定形		1	1
	つつ	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	16	6	22
	丁寧体	否定形	3	2	5
許可型 集計			19	8	27
授受型	丁寧体	肯定形	3	4	7
	丁寧体	否定形	48	75	123
授受型 集計			51	79	130
直接型	丁寧体	肯定形	11	27	38
	丁寧体	否定形		1	1
	丁寧体	集計	11	28	39
	普通体	肯定形		1	1
直接型 集計			11	29	40
総計			91	126	217

表9 同先に対する表現

型	体	形	女	男	総計
メタ型	丁寧体	否定形		1	1
	丁寧体	集計		1	1
メタ型 集計				1	1
可能型	つつ	否定形		1	1
	つつ	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	1		1
	丁寧体	集計	1		1
可能型 集計			1	1	2
回避型	普通体	肯定形	1		1
	普通体	集計	1		1
回避型 集計			1		1
願望型	丁寧体	肯定形	5	7	12
	丁寧体	集計	5	7	12
願望型 集計			5	7	12
許可型	つつ	肯定形		1	1
	つつ	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	14	4	18
	丁寧体	否定形	2	2	4
許可型 集計			16	6	22
授受型	つつ	否定形		1	1
	つつ	集計		1	1
	丁寧体	肯定形		3	3
	丁寧体	否定形	32	42	74
授受型 集計			32	45	77
直接型	普通体	否定形		1	1
	普通体	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	32	47	79
	丁寧体	集計	9	18	27
直接型 集計			9	18	27
総計	普通体	肯定形		1	1
	普通体	集計		1	1
	丁寧体	肯定形	9	19	28
	丁寧体	集計	64	82	146

表10 異先に対する表現

「つつ」体が見られるのもまた特徴の一つである。4-3. でも述べているが、これは先輩相手でも親しみを表すために使用している表現と考えられるため、文体としてのポライトネスの度合いは丁寧体と普通体の間といったところだろうか。本調査において「つつ」体の出現が少なかったことから考えられるのは、《依頼》による相手への負担を考慮した場合、積極的には使用されない表現だということである。実際の回答では、[可能型] や [許可型]、ないしは否定形を使用することでポライトネスの度合いの低さを補っている。

「つつ」体とは、親しくなった目上の相手と話すときの口調として、配慮

をしなければならないから普通体では失礼だが、親しいから固い敬語で話すのもよそよそしい、といった葛藤の中から選択される文体ではないだろうか。依頼表現において「っす」体の回答をしたのはどちらも男性であったが、あまり女性が使用する文体ではないのかもしれない。

5-4. ネットワーク分析による回答の分析

今回の調査で得られた回答例の性差やその関連性を視覚化するために、回答者数の多い四国を代表として取り上げ、その回答に対してネットワーク分析²⁴⁾を行った。回答者の属性（性別）と回答の関連性をネットワーク分析で表したのが図 1~4 である。図の左上に男性、右上に女性を置き、回答された表現とのつながりを示している。男性から出ている表現（図の左側に集中しているもの）が男性からのみ得られたもの、女性から出ている表現（図の右側に集中しているもの）が女性からのみ得られたもの、男女両方から出ている表現（図の中心付近に集中しているもの）がどちらからも共通して得られたものを表現している。

分析を行う対象をノード²⁵⁾として設定し、それらの関連性を示すものとして関係線（スプリング）²⁶⁾でノード同士を繋いでいる。この太さが関連性の強さを表しており、関係線が太いほど使用頻度の高い表現であるということである。

男女の回答に共通しているものは、友人に対しては「貸してくれ（へ）ん」、先輩には「貸してもらえませんか」がそれぞれ多い回答であったということである。これは依頼相手の性別には左右されない。これら二つの回答はどちらも「授受型」で否定形であることが共通しており、違うのは普通体か丁寧体かの点である。「授受型」の「くれる」と「もらう」という形式の違いも、より配慮の程度に差をつけているものと見られる。

これらのことから、表 7~10 の結果も含めて考えると、表現に細かな差異はあれど今回の質問において設定された依頼内容には、「授受型」の否定形での表現が適当だと言えそうだ。

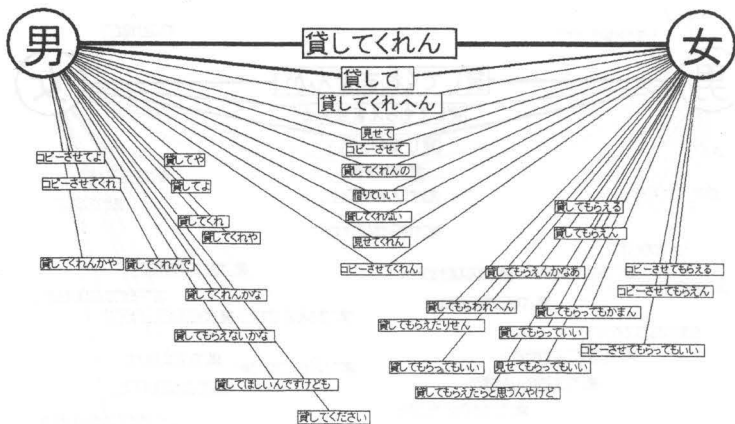


図1 同友に対する表現

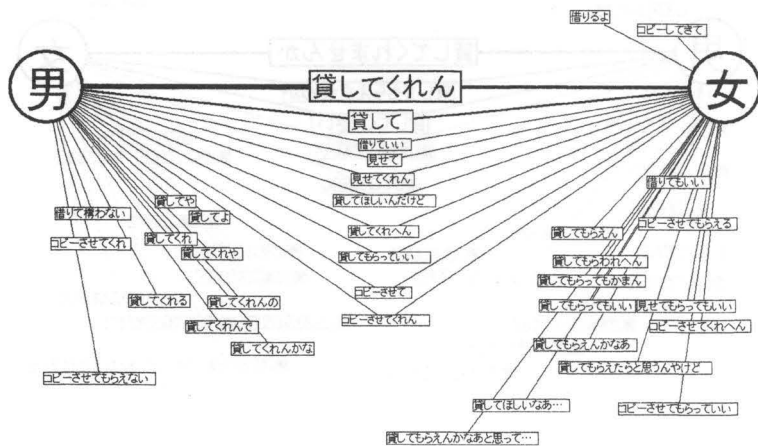


図2 異友に対する表現

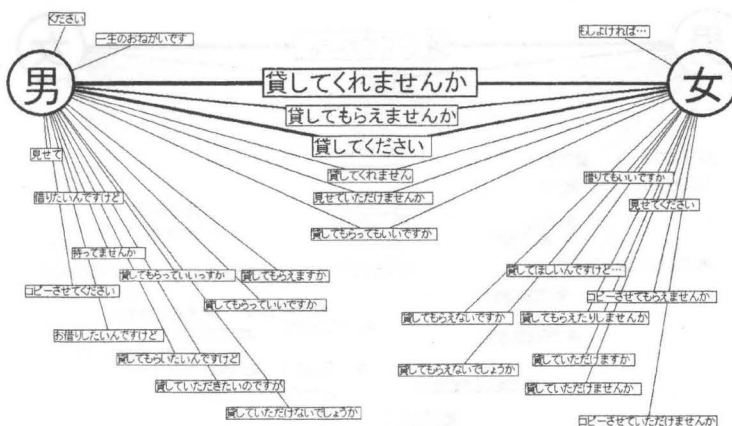


図3 同先に対する表現

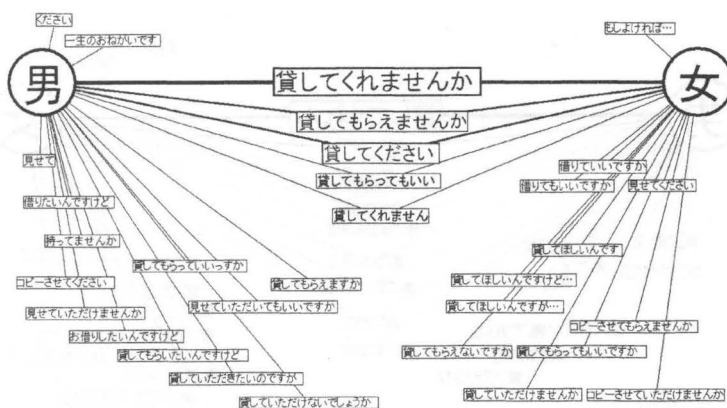


図4 異先に対する表現

終助詞「か」は疑問の意味を有する。「くれないか」のように文末におくこ

とで疑問文であることを示すことも可能である。しかし、「か」を入れずとも語尾のイントネーションを上昇調にすることのみで疑問の形をとることもある(例:「くれない↑か」)。

「か」を付けるか付けないかの違いは、話者同士の心的距離を表しているように思われる。友人に対して「くれないか」と問うよりは「くれない↑」とした方が親しみも出るが、先輩に対して「くれません↑」と表現すると、馴れ馴れしい印象を与える。このことから考えると、「か」を省いた表現が可能な相手は、ある程度の親しい間柄であることが必要らしい。すなわち、終助詞「か」で疑問文を表す場合には相手から距離を置こうとする働き、上昇調で疑問文を表す場合には相手との距離を縮めようとする働きがそれぞれあるものと考えられる。「借りていい↑」よりも「借りていいか」の方がやや乱暴な印象を受ける²⁰のは、心的距離を縮めようとしていないことの表れとも取ることができるからである。

終助詞「か」が付く表現が明らかな疑問文を表すものであるのと違い、付かない表現はやや容認性が低くなる。つまりイントネーションで疑問を示す場合、より肯定的な回答を相手に期待しているのである。疑問形の表現に焦点を当てて図 1~4 を見ると、友人にはイントネーション疑問の表現、先輩に対しては「か」の付く表現が、相手の性別に関係なく多いことが分かる。依頼実行の可能性の期待の大きさは相手との心的距離の近さに比例するため、友人には親しみを、先輩には配慮を表現しているものと考えられる。

図 1~4 の男性にしか表れていない表現、女性にしか表れていない表現に注目して男女それぞれに特徴を見出すとすれば、まず男性は友人にはクレル類²¹の表現を女性よりも多用し、先輩相手になるとモラウ類²²やイタダク類²³が出てきており、配慮の表示を段階的に行う傾向がある。それに対して女性はクレル類の表現が少なく、相手が友人であろうが先輩であろうが全体的にモラウ類の表現を選択する傾向があると言える。もちろん、男女に共通して使用される表現の中にクレル類も多くあるので、女性の表現にクレル類がほとんどないというわけではない。

丁寧さの順番として、クレル類<モラウ類<イタダク類とすれば、男性は相手が友人か先輩かで使い分けをしようとし、女性はいどの相手にも平均的に配慮表現をしているということが特徴的であろう。また、女性のみ²⁴の回答の中で図 2 にある「借りるよ」や「コピーしてきて」など丁寧さの低い表現が、異性への依頼には見られ同性への依頼には見られないことなどから、表現上

では、女性は異性よりも同性に対するポライトネスの度合いが高いのではな
いかと考えられる。

6. まとめと今後の課題

今回は主として《依頼》における表現の使い分けを性差に注目して、依頼
相手が友人か先輩かの「上下関係」と、同性か異性かの「性別」の二つを軸
に考察した。冒頭に挙げた「目上への接し方には、大きな性差は見られない」
「異性への接し方として、相対的に男性はより気を遣い、女性はより親しげ
に接する」だろうという二つの推測を踏まえて整理する。

「上下関係」は、意識の上(5-1.)でも表現の上(5-3.・5-4.)
でも先輩にはより配慮をするといった形で、その使い分けに影響を与えてい
ることが分かった。表現の選択においては、依頼相手が同性か異性かという
ことより目上であるかどうかの方が優先されるようである。また、回答者の性別
による差も見られなかった。

「性別」の視点から言えば、意識的(5-1.)には男性の方が女性よりも
異性に対する配慮の度合いが大きいことが見られ、逆に表現(5-3.・5-
4.)から、女性は、異性よりも同性に対するポライトネスの度合いが高いと
いうことをうかがうことができた。女性の「異性への態度」としてより親し
げであるかどうかは明確にはあらわれなかったが、男性は少なくとも意識的
な部分では異性に対して女性よりも気を遣うことが確かめられた。

《依頼》というネガティブ・フェイスの侵害行為は、被依頼者への配慮を
強要する。その配慮の方法には性差が生じることが本研究から分かった。し
かし性差の生じる理由に関しては未だ明確でないところが多い。感覚として
は、女性は異性よりも同性に対して「どう思われているか」「どう見られてい
るか」を気にする傾向にあると思われる。その点から考えれば、女性の同性
に対するポライトネスの高さにも納得がいく。では男性の場合は何故異性
に対してポライトネスの度合いが高くなるのであろうか。これは“接触するこ
と”に対する考え方の違いによるものと考えられるが、今回の調査のみでは
断言しがたい。男女それぞれの、同性に対する態度・異性に対する態度は、
心理学的立場からの考察も加える必要があるかもしれない。

結果として、男性は比較的先輩に丁寧な態度を表し、また異性に対して配
慮する傾向が見られた。女性は、友人・先輩問わず平均的な丁寧さの表現を
選択し、男性よりも異性に対する配慮は高くはなく、むしろ同性に対する配

慮を高くする傾向にあると言える。

本研究ではアンケート調査による回答者の負担を考え依頼相手を4種のみ
に絞ったため、後輩に対する配慮の方法やその他の属性による表現の違いに
ついては言及できなかった。これはここで報告したもの以外にも質問項目が
あったことに起因しているが、今後はさらに細かくまた多様な場面設定を
することが必要であると感じた。

今回は《依頼》に直接かわる表現のみを扱ったが、今後は「すみません」、
「ごめん」といった断りの表現なども含めた発話全体からの考察や、依頼内
容の負担度の違いによる表現の差異、またそれらに見られる地域性なども考
察をすることで、現代日本のコミュニケーション方法の様相を明らかにした
い。

参考文献

- 秋月高太郎 (2005) 『ありえない日本語』 筑摩書房
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない：最新用例と基礎知識』 講談社
- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス - ポライトネスの談話理論構想
-」 『談話のポライトネス』 国立国語研究所
- 尾崎喜光ほか (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』 国立国語研究所
- 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究 - 理論と応用 - 』 研究社
- 小泉保 (1990) 『言外の言語学』 三省堂
- ジェニー・トマス著 浅羽亮一監修 田中典子, 津留崎毅, 鶴田庸子, 成瀬
真理訳 (1998) 『語用論入門 - 話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味 - 』
研究社
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- 日本語記述文法研究会編 (2007) 『現代日本語文法3』 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4』 くろしお出版
- 飛田良文ほか編 (2007) 『日本語学研究事典』 明治書院
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』 くろしお出版
- 元智恩 (2005) 「日韓の断わりの言語行動の対照研究：ポライトネスの観点
から」
- 柳慧政 (2008) 『日語日文学 第37輯』 「日韓の依頼談話の対照研究 - 依頼の
成立の後から終了まで -」
- 柳慧政 『日語日文学研究 第53輯』 「韓国語と日本語の依頼表現の対照研究

i 《依頼》と《命令》の違いについて、山岡（2008）は「《命令》と《依頼》の違いは、働きかけの程度の違いによるものではなく、聴者の行動に対する話者の権限が条件として求められているかどうか（聴者に対する拘束力があるかないか）といった質的な差異をもって、別範疇と認定する」と述べている。

ii 例文には実際の回答を尊重しクエスションマーク“?”を付けているが、考察では省いている。

iii 実際の発話では口調などとされるが、本稿はアンケートに記述されたものを扱うため、“文体”とした。

iv 不等号記号“<”は“<”よりも差が大きいことを表す。

v この回答者は、本稿では取り扱わなかった質問項目においても、依頼相手による表現の使い分けをしない回答をしていた。

vi ここの回答は同性・異性どちらに対しても「先輩…申し訳ないんですけど、明日のテストの資料がなくなったので、もしよければ…」というもので、言い切らない形で間接的表現としての性質を強めている。

vii 本稿では取り扱わなかった質問項目の回答も含めると、全体で10名の回答者に「っす」体の表現がみられたが、その内女性は1名のみであった。

viii テキストマイニングツールの一つの“トレンドサーチ 2008”による分析で、回答の関連性などを視覚化することができる。

ix 図において丸や長方形で囲まれているものを指す。

x 図においてノード同士を繋いでいる線を指す。

xi 上向き矢印“↑”は上昇調を表す記号とする。

xii 「借りていい↑」は男女ともに使用例の見られた回答だが、「借りていいか」は女性の回答には見られなかった。

xiii 「くれる」や「くれない」、「くれん」といった、表現の中に「くれ(る)」が付くものを“クレル類”とする。

xiv 「もらえる」や「もらえませんか」、「もらえん」といった、表現の中に「もらえ(る)」の付くものを“モラウ類”とする。

xv 「いただけませんか」や「いただきたい」などの、表現の中に「いただ(く)」が付くものを“イタダク類”とする。丁寧さの違いからモラウ類とは別とする。